

早稲田社会学会ニュース 第20号

2002年8月23日発行

早稲田社会学会事務局

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 社会学研究室内

Tel: 03-5286-3742

E-mail: t_enomoto@nifty.com

今回のニュースの内容

1. 研究例会の報告
2. 第54回早稲田社会学会大会の報告
3. 早稲田社会学会総会の報告
4. 2001年度研究助成の報告
5. 2002年度の研究助成について
6. 「早稲田社会学会会則」の一部改正について
7. 名誉会員について
8. 役員交代について
9. 入退会者のお知らせ
10. 会員名簿の配布について
11. 学会費納入のお願い

1. 研究例会の報告

第19回(2002年度 第1回)研究例会が以下のとおり開催されました。

日時: 2002年5月18日(土) 15:00-18:00

会場: 早稲田大学文学部 第1会議室

報告者: 高橋順一氏(早稲田大学)

題目: 「『啓蒙の弁証法』の再評価について」

2. 第54回早稲田社会学会大会の報告

第54回早稲田社会学会大会は、2002年7月13日(土)に早稲田大学文学部 第1会議室において開催されました。報告者および報告題目、司会者、討論者は次のとおりです。

一般報告

司会者 岡本智周(早稲田大学)、矢部謙太郎(早稲田大学)

報告者 河野憲一「社会科学におけるシュッツによるレリヴァンス論の重要性

——多元的現実論・シュッツ科学論からレリヴァンス論の再構成へ」

木村正人「「アルキメデスの点」に立つのは誰か? ——シュッツとデューイの学知と日常知」

河野昌広「個人ホームページにおける自己呈示 ——事例研究を中心として」

シンポジウム

テーマ： 複雑性とシステムへの新たな視点 ミクロ・マクロ関係を問い直す

司会者 石井幸夫（早稲田大学・武蔵大学）

報告者 桜井 洋（早稲田大学） 「自己組織性と秩序形成」

鈴木 平（宇部フロンティア大学） 「心身問題、社会、環境と複雑系 ——学際性の視点から」

西阪 仰（明治学院大学） 「マクロ構造上の特徴そのものを語ること」

討論者 坂田正顕（早稲田大学）、菅原 謙（武蔵大学）

<シンポジウム報告> 司会者・研究活動委員会委員 石井幸夫

ミクロ-マクロ問題は社会学の歴史とともに古い。それはいわば社会学そのものであって、その検討はその時代の社会学の診断と新たな社会学の模索となるしかない。ミクロ-マクロ問題をテーマとした今大会のシンポジウムにおいて、複雑系の科学、エスノメソドロジーとその立場に違いはあれ報告者諸氏が共通に取り組んだのは、まさにこのような困難な作業だった。まず第一報告者桜井氏は、社会学を含む従来の西洋思想において、人間は何ものかに服従せねばならない存在であり秩序はその服従の結果として把握されてきた(ポスト構造主義はこれを脱構築したがそこにポジティブなビジョンはなかった)と総括した上で、複雑系の科学をこれに対抗するパラダイムとして大胆に描き出した。氏によれば、その人間観、秩序観のポイントは、無数の自律的エージェント(行為者)間の相互作用が‘その全体を制御する規則(規範)なしに自生的に’秩序形成する(自己組織化)というビジョンにあり、これは従来のシステム論における‘プログラムによる制御’を軸とするミクロ-マクロ結合のビジョンを一新するものである。第二報告者の鈴木氏はこの複雑系の科学を心理学において展開する可能性を提示した。氏は、心身間の相互依存性を実験的に確認し、ここから心身関係を従来の心理学が採用してきた単純な因果図式によってではなく複雑系として分析する必要性を強調した。第三報告者の西阪氏は、ミクロ-マクロ問題に対するエスノメソドロジーの回答を手際よくデモンストレートしてくれた。氏によれば、あらゆる‘マクロ構造の特徴(例えば、デュルケムが指摘した社会的事実のような)’の事実性は当事者によって瞬間瞬間に相互行為の中で相互行為として具現化されてこそ成立するのであって、それゆえ相互行為といういわば‘破片’を精緻に分析することこそが‘全体性’の分析に通じているのである。さて、問題は、このような複雑系の科学、エスノメソドロジーがどれほど旧来のミクロ-マクロ関係把握あるいは社会学から距離を取り新しい理論的可能性を開示し得ているのか、である。コメンテーターである坂田、菅原両氏のコメントはこの点に集中した。特に重要と思われたのは、複雑系の科学は相互行為者の志向を理論化し得ないのではないかという指摘であり、他方エスノメソドロジーは相互行為者の志向に徹底準拠すると公言しながらこれを分析上に示し得ていない(それゆえ、結果として、研究者が相互行為に‘マクロ構造の特徴’を読み込む従来の社会学と変わらない)のではないかという指摘であったが、時間的制約から議論が深められなかったのは残念な限りであった。しかし、報告者諸氏が短い時間の中で提起した考案の瑕疵を求め旧来の社会学的考案の延長に過ぎないと切り捨てるのではなく、新たな社会学の‘可能性’の提案として積極的に評価し吟味し自らの思考の精緻化を図ること、これはシンポジウム参加者一人一人に与えられた課題なのであろう。事新しげな言葉を振りかざすだけの素朴な状況主義が跋扈する現在の知的状況において、今回のシンポジウムは大きな課題を提起していたように思われる。

3. 早稲田社会学会総会の報告

2002年7月13日に、大会に引き続いて開催された総会において以下の事項が報告されました。

- 1) 理事会および研究活動委員会、編集委員会の活動報告（2001年7月～2002年7月）

- 2) 2001 年度研究助成報告について（庶務担当理事）（第 4 項をご参照ください）
- 3) 2002 年度研究助成の申請と採用の経過について（庶務担当理事）（第 5 項をご参照ください）
- 4) 会員名簿の作成と配布について（庶務担当理事）（第 10 項をご参照ください）
- 5) 『社会学年誌』「執筆要項」の一部改正について（編集担当理事）

また、同総会において以下の議案が提案され、慎重な審議の結果、すべて原案どおり可決されました。

- 1) 2001 年度決算案の審議と承認（同封の決算報告をご参照ください）
- 2) 2001 年度会計監査報告（同封の決算報告をご参照ください）
- 3) 2002 年度予算案の審議と承認（同封の予算報告をご参照ください）
- 4) 「早稲田社会学会会則」の一部改正について（第 6 項をご参照ください）
- 5) 名誉会員候補者について（第 7 項をご参照ください）
- 6) 次期役員を選出（第 8 項をご参照ください）
- 7) 次期会長の選出（第 8 項をご参照ください）

4. 2001 年度研究助成の報告

昨年度の研究助成の対象は、次の 2 つの研究でした。

研究題目： 「新明正道における「東亜新秩序」論の展開」
研究代表者：道場親信（早稲田大学・日本大学非常勤講師）
助成額： 200,000 円

研究題目： 「高齢期における「移住」——自己決定して移り住む人たち」
研究代表者：高田知和（早稲田大学非常勤講師）
助成額： 100,000 円

このたび、研究成果の概要について以下の報告が提出されました。

新明正道における「東亜新秩序」論の展開

道場親信（早稲田大学・日本大学非常勤講師）

新明の旧蔵書は、その大半が甲南女子大学図書館に寄贈されているが、新明自身の著作で貴重図書が一部日本学士院図書室（上野）に寄贈されている。とくに学士院図書室以外の場所で見ることがないものとしては、ガリ版刷りの『社会学概説』（東北大学講義、1935 年）、『満鉄夏期大学講演集』に収録された百数十ページにわたる新明の「民族社会学」の体系的講述が重要である。後者は、詳細な書き込みも残っており、のちの『史的民族理論』の原形になったものと思われるが、ここにしか現存していないように思われる。同図書室は複写サービスを行っておらず、今後交渉が必要である。

甲南女子大所蔵の旧蔵書であるが、新明がドイツ留学時代に収集した雑誌も含め、かなり大量の蔵書が保存されている。OPAC 目録によれば、和書が 5625 冊、洋書が 2819 冊である。この段階まで整理が進んでいるが、目録化されているのは単行書のみであって、雑誌・調査報告書・パンフレットの類は未整理のままである（同図書館の職員の方によれば「中断中」ということであった）。この未整理資料は、目測では 1500 点近くにのぼると考えられる。ただし、調査においてもっとも期待していた 15 年戦争期の新明の論文が掲載された総合雑誌等はほとんど皆無であった。学術雑誌は学士院図書室と甲南女子大に分割所蔵されているものの、戦時期の総合雑誌についてはいかなる理由か、まるまる欠落している。今後、遺族へのインタビュー調査が必要である。戦後の「公職追放」のこともあり、この時期の時局関与に関する資料は処分されたのかもしれない。彼が役員も勤めた東亜連盟協会に関しても、理事を務めた大日本言論報国会についても、関連

資料はほとんどない、というのが実態であった。場合によっては、追放解除運動に奔走された新明の教え子の方々にインタビューすることによって、両団体関連の蔵書についてはわかるかもしれない。というのも、弁護のためにこれら資料を読んだ可能性があるからである。戦後の雑誌に関して目立つことは、IDE（民主教育協会）の機関誌数種、『民主社会主義』『民主社会主義研究』その他の民社党系ブレーンに連なる雑誌がまとまって存在していた。IDE、民主社会主義研とともに、戦前の「改造」思想や初期新人会文化が流れこんだ場所であり、新明と並んで蟬山政道なども重要な役職を果たしている。

調査の具体的作業としては、事前にダウンロードした目録データを整理しなおして、社会学関係書、その他社会科学、民族論、アジア論、社会思想等に関してはチェックをし、これを重要と思われる順に「ランク1」から「ランク3」までに分類して、書き込みの有無、量、内容について点検をする、という方法を採用した。今回は戦時期がテーマであるので、戦後刊行図書については、戦時期について触れているもののみにとどめ、調査しなかった。蔵書中、ラインのあるものは多数にのぼったが、中には戦前の刊行書であってもボールペンでラインが引かれているものもかなりあり、これらは戦後に読まれたものと推測できる（ボールペンの発売は第二次世界大戦後）。結果として、必ずしも事前に「重要」と思われた本が参照されていなかったり、そうでないと思われた本が読み込まれたりしていて、容易に結論を出しがたい、というのが現在の認識である。たとえば、「明治45年」に刊行された『作文講話及文範』という本の扉に「吾人の将来は文にあり」といった文を、まだあまり書き慣れていない文字で記したもの（おそらく青年期か思春期のものであろう）なども見付き、彼の伝記的事実としては興味深いと思われるが、全体としてはこのような「肉声」を見ることのできる資料は少なかった。

蔵書が膨大であること、また、かなりの書物にラインが引かれていることから、新明の思想形成における蔵書の個別的な役割を解析するところまでまだ作業は進んでおらず、今後、前述の通り関係者のインタビューや、より詳細な蔵書調査の継続が必要である。

（なお、高田知和氏の研究報告については、資料等の整備をめぐって手続きが継続中であり、次号の「学会ニュース」に掲載される予定です。）

5. 2002年度の研究助成について

前号の「学会ニュース」において本年度の研究助成の申込みを募集しましたが、申請はありませんでした。

6. 「早稲田社会学会会則」の一部改正について

2002年7月13日の総会において、会則第二二条にもとづき、会員15名より以下の改正案が提案され、慎重な審議の結果、出席者全員の賛成により本改正案が原案どおり可決・承認されました。

1) 第四条の改正

*改正点：「名誉会員」規定の新設

【現行】

第四条 本会の会員は次の通りとする

(一) 通常会員

会員一名以上の推薦に基づき理事会の承認をえたもの

(二) 賛助会員

本会の主旨に賛同し本会のために特別の援助を与える個人または団体の中より理事会が推薦し総会が承認したもの

↓

【改正】

第四条 本会の会員は次の通りとする

(一) 通常会員

会員一名以上の推薦に基づき理事会の承認をえたもの

(二) 名誉会員

本会の発展に特に功績のあった通常会員で、理事会が推薦し総会が承認したもの

(三) 賛助会員

本会の主旨に賛同し本会のために特別の援助を与える個人または団体の中より理事会が推薦し総会が承認したもの

*理由：永年、本会の発展に特に顕著な功績のあった会員の功労に報いるため。

2) 第二四条の改正

*改正点：名誉会員の会費納入義務免除規定の新設

【現行】

第二四条 本会の会員は会費を納入しなければならない。ただし通常会員の会費は年額五〇〇〇円(学生の会員は三〇〇〇円)とする

↓

【改正】

第二四条 本会の会員は会費を納入しなければならない。[ただし：削除] 通常会員の会費は年額五〇〇〇円(学生の会員は三〇〇〇円)とする。ただし名誉会員は本条の適用を免除する

*理由：第四条改正を実質的なものにするため。

7. 名誉会員について

2002年7月13日の総会において、改正後の会則第四条(二)にもとづき、理事会より名誉会員候補として次の3名が推薦され、審議の結果、全会一致で承認されました。

鈴木二郎 氏 (東京都立大学名誉教授)

秋元律郎 氏 (早稲田大学名誉教授、大妻女子大学教授)

間 宏 氏 (早稲田大学名誉教授)

この結果をふまえて、正岡会長が候補者の方々のご意向を確認し、ご快諾を得たので、上記3名の方々が名誉会員に就任されました。

8. 役員交代について

2002年7月13日の総会において、会則第十五条および「早稲田社会学会・理事候補者推薦委員会」規定にもとづき、理事候補者推薦委員会より次期の理事候補および監事候補として次の13名が推薦され、審議の結果、全会一致で承認されました。(敬称略、氏名50音順)

【理事】

池岡義孝 (早稲田大学人間科学部)	浦野正樹 (早稲田大学文学部)
長田攻一 (早稲田大学文学部)	加藤彰彦 (帝京大学)
河西宏祐 (早稲田大学人間科学部)	嶋崎尚子 (早稲田大学文学部)
成富正信 (早稲田大学社会科学部)	長谷正人 (早稲田大学文学部)
干川剛史 (大妻女子大学)	正岡寛司 (早稲田大学文学部)
和田修一 (早稲田大学文学部)	

【監事】

北澤裕 (早稲田大学教育学部)	嵯峨座晴夫 (早稲田大学人間科学部)
-----------------	--------------------

また、会則第十五条(一)にもとづき、新理事会の互選により次期会長候補として正岡寛司氏が選出され、同総会において審議の結果、全会一致で承認されました。

同日開催された臨時理事会において協議の結果、新理事会の構成について、次の担当分掌が決定されました。(敬称略)

会長：	正岡寛司
庶務担当理事：	長田攻一、池岡義孝
編集担当理事：	嶋崎尚子、干川剛史
研究活動担当理事：	長谷正人、加藤彰彦
会計担当理事：	浦野正樹、成富正信
渉外担当理事：	和田修一、河西宏祐

9. 入退会者のお知らせ

理事会において以下7名の入会が承認されました。(以下、敬称略)

2002年6月15日理事会

大嶽宏介 (立教大学大学院社会学研究科)	藤巻祐規 (早稲田大学大学院文学研究科)
河野昌広 (早稲田大学大学院文学研究科)	河野憲一 (早稲田大学大学院文学研究科)
木村正人 (早稲田大学大学院文学研究科)	中山 健 (早稲田大学大学院文学研究科)

2002年7月13日理事会

小藪明生 (早稲田大学大学院文学研究科)

次の会員から退会届が提出され、2002年6月15日の理事会において報告・承認されました。

小林宏一 (東京大学)	矢野佐和子 (早稲田大学大学院文学研究科)
-------------	-----------------------

10. 会員名簿の配布について

本誌に同封して、「早稲田社会学会 会員名簿」をお送りします。本年5月のアンケート葉書にて、Eメールの添付ファイルによる受け取りを希望された方には、別途、Eメールにより送信いたします（本誌到着後、1週間程度を経過してもなおメールが届いていない場合には事務局までお知らせください）。

掲載データに訂正や変更がありましたら、事務局までご連絡ください。

なお、本名簿には個人情報に掲載されておりますので、取り扱いには十分ご注意ください。

11. 学会費納入のお願い

本年度の学会費が未納の方、および過年度分の未納がある方宛てに、振り込み用紙（お名前と該当の未納年度を印字しております）を同封いたします。早急にお振り込みくださいますようお願い申し上げます。なお、本状と入れ違いになりました節はご容赦ください。

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

（年会費：一般会員 5,000 円 学生会員 3,000 円）

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、通信欄にその旨を明記ください。

会費を3年以上滞納されますと、2000年7月8日の総会決議および2000年12月16日の理事会決議にもとづき、会員資格の一部が停止されます（次の3つの権利が失われます。①学会大会で報告すること ②『社会学年誌』へ投稿すること ③『社会学年誌』の配布を受けること）のでご注意ください。

2000年12月16日の理事会決議にもとづき、事務局では「未納会費の一部が納入された場合には、1997年度以降の最も古い年度の未納分から優先的に充当」する処理をとっております。したがって、本年4月以降にお振り込みいただいた会費が、本年度（2002年度）分ではなく、過年度の未納分として充当されている場合もあります。ご了承ください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（t_enomoto@nifty.com または 03-5317-2708）までご連絡ください。

以上